

市川市議会議員

第 38 号 2015/12/14

石原よしのり通信



外環道路の街路樹をクロマツに。

将来、市民が自慢できる松並木をつくろう。

外環道路は平成 29 年度の完成に向けて市内で工事が進んでいます。そこに植える街路樹は、国がこれから決めていきますが、市川市が要望することができます。

私は、市川市の木である「クロマツ」がいいと思います。

クロマツのある落ち着いた住宅街の風景は他市にはない市川の魅力です。しかし近年、そのクロマツがどんどん伐られてなくなってきています。クロマツを将来に残すためには新たな松を植えて育てなければならなりません。その最適な場所が外環道路なのです。

外環道路は、道の幅が 60m で広い植樹帯が整備されます。この植樹帯をクロマツの並木にすればいいのです。植えたときは低木でも 20 年後には立派な松の並木となり、市川市民の自慢の新名所になることに間違いありません。

私は 10 月に行われた外環道路特別委員会でも、国にクロマツ並木を採用してくれるよう強く主張しましたが、国は松が街路樹に向かないと消極的な反応でした。また 12 月の市議会の一般質問でも市の考えを質し国に強く働きかけるよう主張しましたが、市も、菅野駅周辺、京葉道路との交差点などへのまとまったクロマツ植樹は進めようとしていますが、並木については消極的でした。松が街路樹に向いていないという固定観念にとらわれているからです。

松が街路樹に向かないというのは思い込みで、場所によっては最適な樹種になります。

クロマツは元々市川に生えていた樹種ですので気候風土に合っており、排気ガスによる松枯れはもう過去の話です。松くい虫の発生も近年の市川ではゼロです。下枝を切って成長した松は交通の支障にもならず、枝の剪定も必要ないので経済的。松の根は真っ直ぐ下に伸びるので根が広がって邪魔になることはなく、風に強く倒れる心配もない。外環道路の植樹帯はそばに住宅がないので落葉の苦情の問題もない。これが街路樹を研究している専門家の見解です。

多くの市民の方々が強く望んで声を上げれば、松並木は夢物語ではなくなります。まちづくりは 10 年 20 年の長期計画です。

子どもや孫の時代にどんな市川を残していくかを考えるのは今です。ぜひ皆さんも考えてみてください。共に声を上げませんか？



● 12月議会報告での石原よしのりの一般質問

① 不法看板対策と道路占用料徴収について

道路の上空に突き出した看板は、市に許可を受けたうえ占用料を払わなければならないと定められているが徹底されていない。許可の必要を広く知らせ理解を求めるとともに徴収を進めるよう求めた。

⇒ 市は対応を進めると回答

② 過剰反応社会について。アイリンク展望室の眺望規制の解除について

市民からの時に理不尽で強引な苦情要望に過剰反応せずに適切に対処することが必要。苦情を受けて目隠しをしてしまった展望室の規制解除を求めた。

⇒ 市は全庁的な苦情対応体制を整えるとともに、慎重に展望室の規制解除の検討を進めると回答

③ クロマツの保全と外環道路の松並木化について

裏面参照

● 百条委員会の進捗

市民アンケートを何度も実施したとしてその印刷代と返信用切手代の名目で3年間に400万円もの政務活動費の支給を受けていた小泉文人議員と鈴木啓一前議員に対する特別調査委員会（百条委員会）は、現在も活動を続けています。

関係資料提出請求に加えて、10月には小泉文人議員、11月には松永鉄兵議員と青山博一議員の証人尋問が行われました。その中で青山議員は自らの不正を認めた上で「小泉議員にみんなもやっているから切手を買って換金すればいいと指南された」と証言。小泉文人議員と松永鉄兵議員と鈴木啓一前議員が本当にアンケートを実施したのかどうか疑惑が一層深まりました。

市議会の膿を出し市議会の信頼を回復するまで、追及の手を緩めず頑張ってください。

石原よしのりのプロフィール

1960年 5月31日 生まれ

1983年 東京大学卒業（農学部 森林・林業政策専攻）

1983年 王子製紙入社。以後27年間、工場現場をはじめ事業管理、経営企画、海外事業を担当

1990年 米国 WAKE FOREST 大学大学院卒業（経営学修士 MBA）

2011年 市川市議会議員に当選、現在2期目

連絡先

〒272-0826 市川市真間 4-11-C202

TEL : 047-710-0958

FAX : 047-710-0959

メールアドレス : yoshinori.ishihara@gmail.com

ホームページアドレス : <http://ishihara-yoshinori.jp>

